

「SGH最終年度」

啓明学院中学校・高等学校
副校長 櫻間 敏夫

「学術研究」「ビジネスプランコンテスト」「フィールドワーク」の3本柱をベースとして、文部科学省からSGH（スーパーグローバルハイスクール）に指定されて5年目となり、最終年度を迎えています。

従来、啓明学院で取り組んできた授業や諸活動・行事をブラッシュアップし、更に大きな視野に立つて物事を捉え、問題発見し、解決策を見いだしてゆく。学び得たことをしっかりと情報発信する。十代の多感で可能性豊富な時期に、チャレンジ精神の基で生徒たちが好奇心と向上心を持って取り組んでいくことのできる機会を充実してまいりました。

「学術研究」においては、SDGs（持続可能な17の開発目標）に関連するテーマ設定をする生徒が増え、世界に目を向けて英文でレポートを書く生徒も出てきました。「ビジネスプランコンテスト」においては、ソーシャルビジネスに着目し、社会課題をビジネスで解決する方策を考案することに中学3年生から高校3年生まで全員が取り組み、豊かな想像力・発想力で素晴らしいプランを立てる生徒が数多くいました。「フィールドワーク」においては、高校2年生全員が修学旅行で異文化に触れるフィールドワークを実施し、ミャンマースタディーツアー、豊岡 Youth プロジェクトをはじめとする様々なプログラムにたくさんの生徒が参加し、貴重な体験をしています。

これらの取り組みに乗じて、関西学院大学における高大連携科目の講座・授業に大学生と一緒に受講し、正式に大学の単位を修得した生徒も数多くいます。神戸大学や兵庫県立大学の提供講座に参加する生徒もいます。学びの意欲に大いなる成長が見られます。

SGHの指定は今年度で終了しますが、これからも更に向上心を持って、より良い取り組みの機会が設定できるようにと考えております。社会（世界）に関心を持ち、問題発見する力とそれを解決する方法を考える力を身につけ、将来世に役立つ人財として成長していけるように、これからも幅広い知識と教養を、そして人間力を身につけていきたいと思っております。啓明学院をお支えいただいております皆様に心から感謝し、これからも心温かく見守っていただければ幸いです。よろしく願いいたします。

目 次

研究開発完了報告書（別紙様式3）	3
研究開発実施報告書	
SGH 構想調書の概要（別紙様式5）	24
構想概要図	26
5年間のふりかえり	
1. 構想をどのように計画したか	27
(1) グローバル・リーダー像を描く	
(2) SGH プログラムを選抜制、コース制にしなかった理由	
(3) 教育資源の発掘、確保	
(4) SGH 推進体制	
2. カリキュラム開発	29
(1) カリキュラム上の位置づけ	
(2) ソーシャルビジネスプラン作成とフィールドワークによる検証	
(3) 学校設定科目「学術研究」とソーシャルアントレプレナーシップ育成との関連	
3. 全員で学ぶ方式が生徒に与えた影響	35
(1) 英語4技能	
(2) 大学進学への進路選択や国際志向にSGHプログラムが与えた影響	
(3) 探究型学習とプレゼンテーション意欲への影響	
4. 調査研究 在校生、卒業生、教員への影響（質的研究）	37
生徒の研究発表、感想文、教材など	
啓明ビジネスプランコンテスト	45
スケジュールと審査員	
ソーシャルビジネスプランとSDGs	
コンテスト当日の配付資料	
コンテスト優秀作品	
取材記事	
ソーシャルビジネスプラン作成の手引き（ワークシート）	
フィールドワーク	65
異文化体験散策 異文化体感フォトコンテスト シンガポール	
ミャンマースタディーツアー	
マレーシアワークキャンプ	
高校生国際交流の集い2019	
SGH報告：フィールドワークポスター展示 タイトル一覧	
「学術研究」	75
「学術研究」発表会 発表者一覧表	
「学術研究」レポート発表例	
「学術研究」ループリック	
英語スピーチコンテスト 優秀作品の原稿	92
参考資料 生徒アンケート	100

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	神戸市須磨区横尾9丁目5番1
管理機関名	学校法人 啓明学院
代表者名	理事長 新 尚 一 印

平成31年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

平成31年4月1日（契約締結日）～令和2年3月31日

2 指定校名

学校名	啓明学院中学校・高等学校
学校長名	寺谷 真一

3 研究開発名

『ソーシャル・アントレプレナーシップを備えたグローバル・リーダーの育成』

4 研究開発概要

『本校の教育の特色である価値観教育、野外教育、読書教育をベースに、SGHの研究では、社会的課題への関心を高め、深い教養と、問題解決力、コミュニケーション力を培い、ソーシャル・アントレプレナーの実践により自主性・協働性・多様性を身につけるカリキュラム及び指導法を大学・各機関との連携により開発する。』

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業 務 項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①高大連携					○	○	○	○	○	○		×
②成果の公表・普及	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③研究開発計画の検証			○	○			○	○	○	○	○	○
④事務職員雇用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(2) 実績の説明

①【高大連携】ア～オが関西学院大学との連携

ア 高大連携科目履修制度(APプログラム) (2単位)の連携

「総合政策トピックスA」	3年生4名	春学期集中	総合政策学部
「国際社会と法」	3年生3名	秋学期	法学部
「現代経済学入門A」	3年生2名	秋学期	経済学部

イ 「高校生国際交流の集い2019」参加支援

ウ 「関西学院世界市民明石塾」参加支援

エ 「KG オールスターキャンプ2019」参加支援 台風のため中止

オ 「KG ビジネスプランコンテスト2019」参加支援

カ 「WWL/SGH 探究甲子園」参加支援 コロナウィルスのため中止

キ 「ROOT プログラム」参加支援 神戸大学との連携

②【成果の公表・普及】

校内外で7回の発表の機会を支援し、成果の公表と普及をはかった。

ア ソーシャルビジネスプラン特別講座の見学会支援

イ 「2019年度スーパーグローバルハイスクール・WWL コンソーシアム構築支援事業・地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型) 合同連絡協議会」参加支援

ウ フィールドワーク報告会 校内ポスター展示会運営支援

エ 「KG ビジネスプランコンテスト2019」参加支援

オ 「啓明ビジネスプランコンテスト2019」(SGH 報告会1)運営支援

カ 「全国高校生フォーラム2019」参加支援

キ 「学術研究」発表会(SGH 報告会2)運営支援

ク 「WWL/SGH 探究甲子園」参加支援 コロナウィルスのため中止

ケ 啓明学院ホームページでの情報発信支援

コ 新聞社への取材協力

③【研究開発計画の検証】

開発計画を検証する機会、方法について助言・運営、資金の提供をした。

ア 文部科学省による実地調査

実施日：令和元年7月16日(火)

場 所：啓明学院中学校・高等学校

内 容：SGH 中間評価以後の事業の改善進捗状況を確認していただいた。
二宮皓先生(SGH 事業の評価に関する有識者会議座長、広島大学名誉教授)、
矢田裕美様(文部科学省初等中等教育局参事官(高等学校担当)付 高校改
革推進室専門職)が、管理機関、教員、在校生、卒業生との面談を行った。

イ 学会発表

主 催：日本教育制度学会

実施日：令和元年11月9日(土)

会 場：宇都宮大学

発 表：課題別セッション 口頭発表「SGHの成果に関する質的研究」

発表者：服部憲児准教授(京都大学大学院教育学研究科)、佐藤知行(啓明学院中学校・高等学校)、鎌野慈人(本学院卒業生、国際基督教大学)

ウ SGH 運営指導委員会①

実施日：令和元年12月13日(金)

内 容：「総合的な学習の時間」でのソーシャルビジネスプラン作成について

エ SGH 運営指導委員会②

実施日：令和2年2月5日(水)

内 容：学校設定科目「学術研究」について

オ 卒業生の海外研修・留学についての調査

実施日：令和2年2月

内 容：本学院卒業生の関西学院大学における海外研修・留学の実績

- カ 事業の評価 対象者：在校生
 実施日：令和元年12月～令和2年3月
 内容：「総合的な学習の時間」ソーシャルビジネスプラン作成とSDGsの関連、学校設定科目「学術研究」の研究テーマとSDGsの関連、学習・発表意欲、令和元年度の活動実績
- キ 事業の評価 対象者：教員
 実施日：令和2年3月
 内容：SGH5年間のふりかえり（生徒の変化、教員の変化等）

④【事務職員雇用】

SGH業務を担当する事務職員を通年雇用し、組織を整えた。

SGH推進体制

SGH推進室	櫻間 敏夫(SGH担当副校長)、指宿 力(広報担当副校長)、長尾ひろみ(SGHアドバイザー) 佐藤 知行(SGH推進室長)、嶺坂 尚(SGH推進室次長) 松田 大輔(啓明学院事務室長)、高山 卓也(啓明学院事務室次長)、北阪 紀子(事務職員)			
SGH推進委員会	中学/スタッフ	高1	高2	高3
	後藤 直哉 (教務部長・社会科) 中野 力(社会科) 長久 善樹(社会科)	前田 慧一郎 (数学科)	Dunk Steven (英語科)	斉藤 利枝(英語科) 前田 聖廉(数学科) 小堀 浩子(理科) 中西 祐介(体育科)
SGH運営指導委員会	黒田 愛(弁護士、久保井総合法律事務所) 櫻間 裕章(神戸新聞執行役員論説委員長) 武田 寿子(NPO法人スペシャルオリンピックス日本・兵庫理事長) 水野 雄二(社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団理事長)			

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①「総合的な探究の時間」の授業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②「総合的な学習の時間」の授業 ソーシャル・アントレプレナーシップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③探究学習に関わる授業	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
④グローバルな課題に関する授業	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
⑤英語発信力強化の授業	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
⑥海外フィールドワーク		○	○	○	○	○	○	○	○			×
⑦国内フィールドワーク		○	○		×							
⑧ソーシャルビジネス特別講座		○	○	○		○	○	○				
⑨高大連携					○	○	○	○	○	○		×
⑩事業の評価								○	○	○	○	○
⑪成果の公表・普及	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(2) 実績の説明

①【「総合的な探究の時間」】

ア 高校からの入学生 1年生 73名 「読書」 (1単位)

イ 中学からの進学生 1年生 172名 「地歴特講」(1単位)

内 容：SDGs マップを使った探究活動を行い、調査結果をプレゼンテーションする。
ソーシャルビジネスの概要を知る。社会課題と社会現象の違いを理解して、SDGs
と関連したソーシャルビジネスプランを作成する。

②【「総合的な学習の時間」】

ア 2年生 252名 ソーシャル・アントレプレナーシップI、キャリア教育 (1単位)

内 容：ソーシャルビジネスの作成方法を学ぶ。社会課題の発生・継続要因を分析する方法
を学び、SDGs と関連したソーシャルビジネスプランを作成する。

講 師：福井邦晃氏(NPO 法人ブレンヒューマニティ事務局次長)

イ 3年生 244名 ソーシャル・アントレプレナーシップII、キャリア教育 (1単位)

内 容：ソーシャルビジネスの展開方法について、事例研究で理解を深め、SDGs と関連し
たソーシャルビジネスプランを作成する。

3次にわたる予選を通過した生徒は、「啓明ビジネスプランコンテスト2019」
(SGH 報告会1)でプランを発表する。

講 師：高尾正樹氏(日本環境設計株式会社代表取締役社長)

リサイクルビジネスを起業した自社の取り組みを紹介した。

Dr. Eiki Satake(Emerson College, Institute for Liberal Arts and Inter Disciplinary Studies,
統計学教授)

世界市民としてグローバルに活躍する人に必要な価値観、態度、学習を
提言した。米国の大学における研究と教育実践をベースに解説した。

①ア、イ、②ア、イを合同して「啓明ビジネスプランコンテスト2019」(SGH 報告会1)を実施した。

実施日：令和元年12月13日(金)

主 催：啓明学院中学校・高等学校

発 表：口頭発表1~3年生6名(3題)、ポスター発表1~3年生23名(17題)

審査員：福井邦晃氏(NPO 法人ブレンヒューマニティ事務局次長)をはじめとする学識経
験者、民間企業経営者、ソーシャルビジネス実践者等、延べ20名。

ウ United Christian College Hong Kong Kowloon East(香港)との合同事業 中止

ソーシャルビジネスのプランを作成した UCCHKKE の高校生が来日し、「啓明ビジネスプ
ランコンテスト2019」に参加し、本学院生徒と議論を深める予定する予定だった。しかし、
令和元年10月に UCCHKKE より申し入れがあり、香港の学生によるデモと政治情勢の不安
定化のため、UCCHKKE は参加を中止することにした。

③【探究学習に関わる授業】

ア 2年生 252名 「学術研究」(1単位)

内 容：19講座に分かれて、基本テキストを精読する。問いの立て方、議論の方法、発表
の方法について学ぶ。5,000字程度のレポートを作成するか学習内容をプレゼンテ
ーションする。

イ 3年生 244名 「学術研究」(1単位)

内 容：19講座に分かれて実施する授業の2年目である。研究テーマを個人で設定し探究
する。研究テーマをSDGs と関連させ、議論しながら12,000字程度のレポートを
作成する。講座グループ内で中間発表を行い、議論を深める。

各講座から選ばれた代表者は、講座グループの枠を超えて議論を行い、「学術研究」
発表会(SGH 報告会2)で口頭発表を行う。

④【グローバルな課題に関する授業】

ア 1年生 245名 「英語会話」(2単位)

内容：SDGsと解決法のプレゼンテーションを磨く、課題解決型の授業。3学期に英語でプレゼンテーションコンテストを実施。

イ 3年生 34名 「国際政治経済」(2単位 選択科目)

内容：金融政策・財政政策が為替レートに及ぼす影響、米国大統領選挙、米国の選挙制度、世界の貧困事情など、グローバル化した世界の時事問題を扱う。

⑤【英語発信力強化の授業】

ア 1年生 245名 「英語会話」(2単位) 同④ア

イ 2年生 252名 「コミュニケーション英語II」(4単位)

内容：ディベートコンテスト。トピックは「SNSは10代に悪影響を及ぼす」、「部活動はシーズン毎に選ばれるべきである」等、現代的な社会課題や異文化理解に関するものである。

⑥【海外フィールドワーク】

ア 2年生 252名 「シンガポール異文化体験散策」

実施日：令和元年9月28日(土)

場所：リトルインディア、アラブストリートほか

内容：異なる文化を発見し・分析する課題解決型学習。グループで複数の異なる文化が混在する地域を散策しながら記録をとる。後に文化の違いについてグループ内で議論し、コメントをつける。2年生全員で実施する「異文化体感フォトコンテスト」で発表する。

イ 1～3年生 9名 「マレーシアワークキャンプ」 3月は中止(コロナウィルスのため)

実施日：令和元年8月13日(火)～20日(火) 7泊8日

場所：ボルネオ島 サバ州オイスカ村

内容：環境問題と経済的発展、教育問題、異文化理解と共生などのグローバルな社会課題を多角的な視点で発見する。海外フィールドワークの導入プログラム。NPO法人ブレンヒューマニティとの連携事業。

連携先：NPO法人ブレンヒューマニティ

講師：松本学氏(NPO法人ブレンヒューマニティ事務局長)ほか。

ウ 1～3年生 16名 「ミャンマースタディーツアー」

実施日：令和元年8月22日(木)～8月29日(木) 7泊8日

場所：ヤンゴン、バガン、ピンウーリン、ミンダツ

内容：希望者を対象とする。現地で展開するソーシャルビジネスの現場を視察し、ソーシャル・アントレプレナーと議論を深める。帰国後ソーシャルビジネスを支援するプロジェクトを生徒が企画・運営し、収益を現地へ還元した。

連携先：一般社団法人 裸足医チャンプルー、Barefoot Doctors Group Myanmar、ミャンマーYMCA。

⑦【国内フィールドワーク】

ア 2年生 5名 「豊岡 Youth プロジェクト」 3回 5月、6月実施

場所：兵庫県豊岡市

内容：希望者を対象とする。「SDGs時代のまちづくり」をテーマに兵庫県豊岡市の地方創生プランを豊岡の高校生とともに考える。

連携先：豊岡青年会議所

講師：村田俊一氏(関西学院大学総合政策学部教授)ほか。

イ 「里山キャンプ in 丸山 2019」 8月に予定していたが中止

受け入れ先(兵庫県篠山市丸山集落)の事情による。

⑧【ソーシャルビジネス特別講座】

1～3年生 13名 隔週土曜日 11:00～12:40 14回 4～11月実施

内容：ソーシャルビジネスプランの作成方法について学ぶ上級プログラム。

講師：福井邦晃氏、駒井まゆ氏(NPO 法人ブレインヒューマニティ)

発表：「啓明ビジネスプランコンテスト2019」でポスター発表を行う。

⑨【高大連携】

ア 高大連携科目履修 (2単位) APプログラム

「総合政策トピックスA」 3年生4名 春学期集中 総合政策学部

「国際社会と法」 3年生3名 秋学期 法学部

「現代経済学入門A」 3年生2名 秋学期 経済学部

内容：春学期集中科目(夏季休暇中に実施)は、SDGsに関連したグローバルな社会課題に関心を持つ3年生が校内選考を経て推薦され、科目を履修する。

秋学期科目は、探究型学習である学校設定科目「学術研究」の取り組みが優秀な3年生が校内選考を経て推薦され、科目を履修する。

履修生全員が単位を取得した。関西学院大学に進学した場合は、卒業単位として認定されるしくみになっている。

連携先：関西学院大学

イ 「高校生国際交流の集い2019」

主催：関西学院大学研究推進社会連携機構、NPO 法人国際社会貢献センター(ABIC)

実施日：令和元年7月25日(木)～26日(金) 1泊2日

場所：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス

参加者：3年生7名

内容：18カ国からの留学生24名(大学生)と兵庫県・大阪府の12校の高校生63名が、SDGs17の目標の中から10テーマを選んで議論する。

ウ 「関西学院世界市民明石塾」

主催：関西学院大学国連・外交統括センター

実施日：令和元年8月6日(火)～8(木) 2泊3日

場所：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス

参加者：3年生1名

内容：全国から集まった高校生30名が大学生とともにSDGs17の目標のうち3つの目標について議論する。

講師：明石康氏(関西学院大学SGU 招聘客員教授、元国連事務次長)

神余隆博氏(関西学院大学国連・外交統括センター長、元ドイツ大使、元国連大使)

久木田純氏(関西学院大学SGU 招聘客員教授、前国連児童基金<UNICEF>駐カザフスタン代表)

マッケンジー・クラグストン氏(関西学院大学特別任期制教授、前駐日カナダ大使)

鈴木大樹氏(一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GIFT)シニア・ダイバーシティ・ファシリテーター)

池上彰氏(関西学院大学客員教授、ジャーナリスト)

エ 「KG オールスターキャンプ2019」 → 台風のため中止

主催：関西学院大学千刈キャンプ

実施日：令和元年8月14日(水)～16(金) 2泊3日

場所：関西学院大学千刈キャンプ

参加者：1～3年生29名

内容：関西学院院内校、継続校、協定校から集まる80名の高校生が、現代の社会課題について議論する。

講師：関西学院大学の教授

- オ 「KG ビジネスプランコンテスト 2019」
 主催：関西学院大学研究推進社会連携機構
 実施日：令和元年 11 月 23 日(祝土)
 場所：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス
 発表：2 年生 2 名(1 題)
 内容：関西学院大学院内校、継続校、協定校の高校生が集まるコンテスト。本学院では SDGs を意識したソーシャルビジネスプランを全生徒が作成。その中から選考された作品が学校代表としてコンテストに挑む。コンテスト前の 10 月には、主催者によるブラッシュアップ指導を受ける。
 表彰：1 組 2 名優秀作品賞(第 2 位)、書類選考で 1 組 2 名が奨励賞を受賞。
- カ 「WWL/SGH 探究甲子園」 → コロナウィルスのため中止
 主催：関西学院大学
 開催日：令和 2 年 3 月 21 日(土)
 場所：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス
 発表：2 年生 2 名(1 題) ポスター発表
- キ 「ROOT プログラム」
 実施機関：神戸大学
 共同運営校：関西学院大学、兵庫県立大学、甲南大学
 実施日：令和元年 1 月～11 月
 参加者：3 年生 1 名
 内容：国際的科学技術人材育成挑戦プログラム
 グローバルサイエンスキャンパス(GSC)全国受講生研究発表会で、研究成果についてポスター及び口頭発表を行った。
 主催：科学技術振興機構、グローバルサイエンスキャンパス
 開催日：令和元年 11 月 16 日(土)、17 日(日)
 場所：日本未来科学館
 発表：Measurement of planaria length: The first step to analyze the T. H. Morgan's experiments in molecular level(プラナリアの体長の測定方法の確立)
 表彰：文部科学大臣賞受賞

⑩【事業の評価】

- ア 「SGHの成果に関する質的研究」
 調査内容：在校生と卒業生の学習の習慣・スタイル・型の形成、成功体験によるその強化、進路・職業観について。SGH に関わることによる教員の資質・力量の向上、意識の変化について。
 調査対象：在校生 22 名、卒業生 13 名(平成 27 年度～平成 30 年度)、教職員 27 名
 調査方法：上記対象者へのインタビュー。
- イ 「総合的な学習の時間」ソーシャルビジネスプラン作成と SDGs の関連
 調査対象：1～3 年生 744 名
- ウ 学校設定科目「学術研究」研究テーマと SDGs の関連
 調査対象：3 年生 244 名
- エ 学校設定科目「学術研究」に関する学習意欲・発表意欲
 調査対象：1・2 年生 497 名
- カ 卒業生の海外研修・留学についての調査
 調査対象：SGH 指定期間に本学院を卒業し、関西学院大学に進学した学生。

⑪【成果の公表・普及】

- ア ソーシャルビジネスプラン特別講座の見学会
 主 催：啓明学院中学校・高等学校
 実施日：平成31年4月27日(土)
 場 所：啓明学院中学校・高等学校
 内 容：神戸星城高等学校がアントレプレナーシップ教育を導入するために教員が講座内容と受講生の様子を見学した。
- イ 「2019年度スーパーグローバルハイスクール・WWLコンソーシアム構築支援事業・地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）合同連絡協議会」
 主 催：文部科学省、筑波大学附属学校教育局
 実施日：令和元年6月28日(金)
 場 所：筑波大学東京キャンパス文京校舎
 発 表：SGH 指定校成果発表 「啓明学院中学校・高等学校の取り組みと成果」
- ウ フィールドワーク報告会 校内ポスター展示会
 主 催：啓明学院中学校・高等学校
 実施日：令和元年10月1日(火)～31日(木)
 場 所：啓明学院中学校・高等学校
 発 表：1～3年生79名(27題)
- エ 「KG ビジネスプランコンテスト2019」
 主 催：関西学院大学研究推進社会連携機構
 実施日：令和元年11月23日(土・祝)
 場 所：関西学院大学 上ヶ原キャンパス
 発 表：口頭発表 2年生2名(1題)
- オ 「啓明ビジネスプランコンテスト2019(SGH 報告会1)」
 主 催：啓明学院中学校・高等学校
 実施日：令和元年12月13日(金)
 場 所：啓明学院中学校・高等学校
 発 表：口頭発表 1～3年生6名(3題)、ポスター発表 1～3年生23名(17題)
- カ 「全国高校生フォーラム2019」
 主 催：文部科学省、筑波大学
 実施日：令和元年12月22日(日)
 場 所：東京国際フォーラム
 発 表：ポスター発表 2年生4名(1題)
- キ 「学術研究」発表会(SGH 報告会2)
 主 催：啓明学院中学校・高等学校
 実施日：令和2年2月5日(水)
 場 所：啓明学院中学校・高等学校
 発 表：口頭発表 3年生19名(19題)
- ク 「WWL/SGH 探究甲子園」 → コロナウィルスのため中止
 主 催：関西学院大学、大阪大学、大阪教育大学
 共 催：早稲田大学
 開催日：令和2年3月21日(土)
 場 所：関西学院大学上ヶ原キャンパス
 発 表：ポスター発表 2年生2名(1題)
- ケ 啓明学院ホームページで、ほぼ毎月情報を発信し、5年間の発信回数も安定していた。

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
回数	20	39	32	28	30

コ ソーシャルビジネスのプラン作成の取り組みについての取材記事が、神戸新聞に掲載された(令和元年1月19日(日))。

7 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 教員の授業スタイルや方法の変化 探究型学習の考え方や方法論の実践

調査の結果、教科や経験年数を問わず、88.5%の教員が、探究型学習に求められる授業スタイルや方法を、以前よりも多く実践するように変化していることがわかった。

「教師自身の授業スタイルや方法が、以前よりも回数や頻度が増えたか」複数回答可 調査対象：専任教員42名 令和2年3月

順位	授業スタイルや方法	割合
1位	生徒が主体的に学べる工夫(課題・目標の明示、課題の工程や時間の管理)	59.5%
2位	コミュニケーションを活性化する授業(ペアワーク、グループ討議など)	47.6%
3位	発表/プレゼンテーションの実施	45.2%
4位	異文化の理解を深めること	33.3%
5位	レポート/論文の書き方の指導	31.0%
6位	評価方法の共有、適切なフィードバックなど	21.4%
6位	評価方法の変化(ルーブリックの利用など)	21.4%
8位	問題発見または解決型の授業	19.0%
9位	調査したデータの収集や分析	7.1%
9位	外部講師と連携した授業(大学/企業/NPO・NGOなど)	7.1%
11位	フィールドワーク	4.8%
	以前から行っているので、変わらない	9.5%
	行っていない	12.0%

このような変化の要因には、教員研修会(ICT教育、探究型学習、公開授業検討)の充実、各種の学習教材や指導法ガイドブックを教員が共有したこと、校内のICT環境の整備等(WiFi、プロジェクターを高校全教室に配備、新入学生がタブレット端末を購入する)があると考えられる。

探究型学習の「学術研究」については、専任教員の6割程度が指導に当たるため、別表のような打ち合わせを行った。

「学術研究」指導教員の打ち合わせ

回	時期	参加者	内 容
1	4月	全指導教員	新年度の授業スケジュール、講座名簿、図書館利用法、3年生の中間発表、2年生の小主題レポートについて
2	5月	全指導教員	生徒の学習状況、指導法、評価法
3	6月	3年生の指導教員	3年生で優秀な生徒の推薦 高大連携科目履修制度
4	7月	3年生の学年団教員	3年生の高大連携科目履修生決定
5	7月	全教員	次年度の担当教科、テキストの選定
6	9月	全指導教員	3年生の研究レポート提出方法、アブストラクト（要約）
7	10月	全教員	次年度のテキスト決定
8	10月	全指導教員	生徒の学習状況、指導法、評価法
9	10月	3年生の指導教員	「学術研究」発表会の代表者推薦
10	11月	3年生の指導教員	3年生の研究レポートのまとめ 「学術研究」発表会の代表者選考、発表方法
11	12月	読書科教員	「学術研究」発表会の全体会の代表者選考、交流会、発表の指導、次年度の講座分け、
12	1月	SGH 推進委員	「学術研究」発表会の全体会の予選、交流会運営、発表の指導
13	2月	全教員	「学術研究」発表会の運営
14	2月	3年生の指導教員	3年生の研究レポートと SDGs 関連調査
15	3月	2年生の指導教員	次年度の講座で指導する生徒について

また「学術研究」やソーシャルビジネスプランの作成、フィールドワークに関連して、以下のような教材や指導法のガイドブックが共有された。

教員間で共有された学習教材、指導法のガイドブック

	タイトル	作成者
1	「情報デザインを意識したスライド作成入門」	天野由貴(広島大学職員)
2	「情報デザインを意識したポスター作成入門」	
3	「ポスター発表の手引き」	久保田香織(本学院理科教員)
4	「『学術研究』指導教員ハンドブック」	嶺坂尚、青木友平(本学院読書科教員) 佐藤知行(本学院国語科教員)
5	「学術研究」ループリック	大作光子(筑波大学大学院) 嶺坂尚(本学院読書科教員)
6	「ソーシャルビジネスプラン作成の手引き」	本学院
7	「ビジネスプランコンテストの手引き」	協力：NPO 法人ブレンヒューマニティ

(2) SGH構想に関する教員の理解度

SGH 指定期間の最終年度を終えて、教員の 83%が、本学院の SGH 構想について理解が深まったと回答している。

SGH 指定 1 年目は、構想について、授業展開、生徒とのかかわりなどで戸惑う教員が多数いた。教員が理解を深まっているからこそ、教員の授業スタイルや方法が探究型学習に則したものに变化していったと考えられる。

ソーシャルビジネスやソーシャル・アントレプレナーシップについての理解が深まったか

とても深まった	62%
一定程度深まった	21%
あまり深まらなかった	17%
まったく深まらなかった	0%

調査対象：専任教員 42名 調査時期：令和2年3月

(3) 探究型学習への生徒の意欲、発表意欲、社会課題 SDGs との関連

1・2年生は3年生の学校設定科目「学術研究」の発表を聴いて、学習や発表することへの高い意欲を示している。発表をしてみたいと思う1・2年生が増えていることは、3年生の発表がよいモデルとなっていると考えられる。

1・2年生の学習意欲、発表意欲	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
知ることや探究することへの意欲がわいた	75%	72%	82%	94%	82%
報告/発表をしてみたいと思う	44%	40%	47%	67%	67%

調査対象：1・2年生 調査時期：毎年2月

次に探究型学習である、学校設定科目「学術研究」(3年生必修)の個人研究テーマとSDGsの関連を見ると、82%の生徒がSDGsを明確に意識して研究に取り組んでいると回答している。そのうちSDGsに関連する上位10位の目標は、次のとおりである。

「学術研究」(3年生必修)の個人研究テーマとSDGsの関連 1~10位 複数回答可 N=232

順位	SDGsの目標と番号	割合
1	16. 平和と公正をすべての人に	22.3%
2	3. すべての人に健康と福祉を	19.3%
3	4. 質の高い教育をみんなに	18.9%
4	8. 働きがいも経済成長も	10.7%
5	12. つくる責任つかう責任	10.3%
6	5. ジェンダー平等を実現しよう	6.9%
7	1. 貧困をなくそう	6.4%
7	10. 人や国の不平等をなくそう	6.4%
9	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	6.0%
10	2. 飢餓をゼロに	5.6%

(4) 社会課題への生徒の関心と取り組み

本学院では部活動への加入率が90%を超えている。熱中する活動がある中、調査によると、生徒は社会課題へ関心の高さを示している。ソーシャル・アントレプレナーになりたいと考える3年生の割合も年々高くなっている。

これは社会の第一線で活躍するソーシャル・アントレプレナーを講師に招いて、講演を聴かせていただいたり、「啓明ビジネスプランコンテスト」で講評を受けたりしたこと、ソーシャルビジネスの起業している本学院の卒業生の話聴く機会が増えてきていることが影響しているためと考えられる。

平成27年にSGHに指定された当時は、ソーシャルビジネスやソーシャル・アントレプレナーシップという概念は、一般には耳慣れないものだった。しかしこの5年間で世界経済のグ

ローバル化が急速に進み、経済・教育・福祉をはじめとする格差の拡大など、社会の歪みが顕著になった。そして、このような状況を改善しようとする人々の動きが注目されるようになったことも、生徒たちの意識変化を支えていると考えられる。このことから、本学院のSGH事業は時代を先行する意義があったといえる。

3年生の社会課題への関心・取り組み	3年目	4年目	5年目
社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組んだ	44%	52%	50%
現地で社会課題発見・解決のプロジェクトやボランティア・研修会に参加した	11%	9%	17%
ソーシャルビジネスにかかわっている	5%	4%	7%
ソーシャルビジネスについて説明できる	42%	44%	45%
ソーシャル・アントレプレナーについて説明できる	28%	41%	36%
ソーシャル・アントレプレナーになりたい	15%	19%	29%

次に「総合的な学習の時間」（ソーシャル・アントレプレナーシップについて）で、「啓明ビジネスプランコンテスト 2019」に向けて作成したソーシャルビジネスプランとSDGsの関連を見ていく。93%の生徒がSDGsを明確に意識してソーシャルビジネスプランを作成している(次の表を参照)。

前述の「学術研究」とSDGsの関連と比較すると、SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標4「質の高い教育をみんなに」、目標16「平和と公正をすべての人に」、目標8「働きがいも経済成長も」、目標12「つくる責任、つかう責任」は、共通して10%以上の生徒が注目していて、高い割合を占めている。

生徒が作成したソーシャルビジネスプランとSDGsの関連 1~3年生 N=744

順位	SDGsの番号と目標	割合
1	3. すべての人に健康と福祉を	38.7%
2	11. 住み続けられる街作りを	23.4%
3	16. 平和と公正をすべての人に	20.3%
4	1. 貧困をなくそう	20.2%
5	12. つくる責任つかう責任	19.1%
6	4. 質の高い教育をみんなに	14.8%
7	8. 働きがいも経済成長も	14.5%
8	2. 飢餓をゼロに	11.7%
9	10. 人や国の不平等をなくそう	7.7%
10	6. 安全な水とトイレを世界中に	7.3%
11	15. 陸の豊かさを守ろう	7.1%
12	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	6.3%
13	5. ジェンダー平等を実現しよう	5.0%
14	17. パートナーシップで目標を達成しよう	4.7%
15	14. 海の豊かさを守ろう	4.4%
16	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	3.6%
17	13. 気候変動に具体的な対策を	2.4%
	18. 該当なし	6.7%

(5) 英語力 CEFR の B1~B2 レベル

SGH 指定 5年目に、3年生の99.5%がこのレベルに達したのは、生徒の努力と英語科教員の

手厚い指導の賜物である。本学院の生徒は、入学前から英語の能力が高いわけではない。英語圏からの帰国生は、毎年、学年で5名(2%)以下である。高校入学時にCEFRのB1～B2レベルの英語力を有する生徒も1割程度である。スタートラインで優位に立っているわけではない。英語を苦手な生徒には、補習の機会を提供している。通常の授業で英検対策やTOEIC対策の授業はしているわけではない。

3年生の英語力	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
英語力 CEFRのB1～B2 レベル	85%	90%	87%	90%	99.5%
英語力 英検準1級以上	3%	5%	6%	2%	5%

調査対象：3年生 調査時期：毎年1月

(6) 海外研修への参加

SGH 指定1年目を除き、毎年100人以上が海外留学・研修を行っている。今年度は、「トビタテ！留学JAPAN」に11名が応募し、1名が認定された。

1～3年生の留学・海外研修	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
留学または海外研修をした	71名	132名	111名	104名	127名
	10%	19%	16%	15%	20%

(7) 3年生のグローバル志向と大学進路選択へのSGHプログラムの影響

グローバル志向の強い3年生は5年間で増加し、3年目以降は70%を超えている。大学の進路選択にSGHプログラムの影響があったと感じている生徒も70%弱いることがわかる。

3年生のグローバル志向と大学進路選択への影響	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
将来、留学したり、仕事で国際的に活躍したい	64%	64%	78%	70%	75%
大学の進路選択にSGHプログラムの影響があった	69%	64%	89%	68%	68%

(8) 国際化を進める国内や海外の大学への進学

3年生の95%が、スーパーグローバル大学創成支援事業の採択校(以下、SGU)である、関西学院大学、国際基督教大学、法政大学、立命館大学、へ進学が決定している。卒業生の中には、国内の大学にいったん入学して、その後、海外の大学に入学した者もいる。SGH 指定1年目～5年目まで、SGUへの進学率は一定で、高い水準を維持している。

(9) 大学進学後の留学・海外研修参加

本学院を卒業後、関西学院大学へ進学した者が、大学主催の留学や海外研修に参加したデータを示す。「1年目」とはSGH 指定1年目に在籍していた3年生を指す。人数は、この学年の生徒が大学を卒業するまでに留学または海外研修を行った延べ人数である。割合は関西学院大学へ進学した人数を分母として算出している。

1年間に関西学院大学主催の留学・海外研修プログラムに参加した学生

大学在学中の留学・海外研修	1年目	2年目	3年目
留学または海外研修をした	43名	53名	33名
	19%	22%	14%

調査対象：啓明学院出身の関西学院大学生2～4年生 調査時期：令和2年1月

資料提供：関西学院大学

(10) 教員から見た生徒の成長・変化

ふだん授業や学校行事、部活動等で生徒と接している教員は、生徒の成長・変化をどのように感じているだろうか。それを数量的に把握するために、専任教員を対象に調査を行った。文部科学省のSGH構想に関する基本的な概念を、調査項目とした。

生徒の能力・関心	割合
グローバルな社会課題への関心が深まった	93%
問題発見力・問題解決力は向上した	90%
コミュニケーション能力は向上した	88%
主体的に学ぶ力は向上した	88%
英語力は向上した	81%

調査対象：専任教員42名 調査時期：令和2年3月

大半の教員は、生徒の成長・変化を実感していることがわかる。自由記述回答では、SGHをコース制にせずに、全生徒が取り組んだことによる生徒のモチベーションの向上、プレゼンテーション能力の向上、発表を聴くオーディエンス(聴衆)の質疑応答の質の高さ、発表を聴くマナーのよさ、などが指摘されている。社会課題への意識が高い生徒がより深い学びをする機会に恵まれたことが指摘される一方で、社会課題への関心が低い生徒の導き方も検討課題とされている。

(11) 中間評価をふまえた改善

平成29年度に行われたSGH中間評価では、本学院はきわめて厳しい評価を受けた。

「現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり、スーパーグローバルハイスクールの趣旨及び事業目的に反し、又は沿わないと思われるので、経費の大幅な減額又は指定の解除が適当とされる。」

中間評価の講評は以下の3点であった。

- SGH取組である「学術研究」は2、3年次で1時間であり、プログラムの大部分は土曜講座や課外活動によって補われている。これらの活動のカリキュラム上の位置づけが不透明であり、年間を通じて生徒が主体的に探究を行う時間が教育課程表から読み取ることができない。生徒がどのような探究的な活動をして、ソーシャルビジネスプランを作成し、それをフィールドワークによって検証しているのか具体的な姿が見えてこないため、構想と実際に大きなずれがあることは問題である。本事業の趣旨にふさわしい新たなカリキュラムとの相違が不明である。
- 全学年で探究活動をしていくためには、担当教員の綿密な打合せや情報共有が必要であるにも関わらず、SGHの中心となる「学術研究」担当者の打合せがどの程度、どのように行われ

ているかが不明である。また、取組に関して、系列校である関西学院大学の連携に全て依存してしまっており、高校側の主体性がどのように担保されているのか十分に読み取ることができない。

- この「学術研究」によるレポートは、あらかじめ示された文献のもと分析読書を実践・発表・議論し、まとめられている。「学術研究」の取組により構想の「ソーシャル・アントレプレナーシップを備えたグローバル・リーダーの育成」のための資質・能力を育成しているかどうか説明が不十分である。

この指摘をふまえて、本学院では、平成30年度から改善に取り組んだ。さらに令和元年7月に文部科学省による実地調査があり、改善事項の進捗状況を報告し、ここでも助言・指導をいただいた。

第1に、カリキュラム上の位置づけの説明、報告の仕方の改善を心がけた。

第2に、関西学院大学との関係については、本学院が関西学院大学の継続校であり、3年生の90%以上が進学するという事情から、強い結びつきをするのは自然なことであると考えている。関西学院大学が主催する事業は、①高大連携科目履修、②「高校生国際交流の集い」、③「関西学院世界市民明石塾」、④「KG オールスターキャンプ」⑤「KG ビジネスプランコンテスト」、⑥「WWL/SGH 探究甲子園」と6つある。

このうち②と④は生徒が参加する高校教員が実行委員会を作って運営をしている。⑤については啓明学院が独自に実施している「啓明ビジネスプランコンテスト」(ソーシャルビジネスに特化)の上位者を学校代表としてエントリーさせている。

このように、取り組みが関西学院大学の連携に全て依存してしまっているわけではなく、高校が主体的に取り組んでいることを強調しておきたい。

第3に、SDGsを核として「学術研究」をとらえ直した。またソーシャルビジネスプラン、フィールドワークでもSDGsを意識させた。こうすることによって何を目指すのか、世界の中での立ち位置はどこかが明確になった。

(12) 客観的調査の実施

改善の過程で、本学院のSGHの成果について、私どもは客観的な状況把握をする必要性を感じた。そこで平成30年度に、京都大学大学院教育学研究科の服部憲児准教授のご協力をいただき、在校生、卒業生、教員への研究調査を行った。

①研究の目的

数値化できるものだけにとどまらないSGHの成果を、質的分析方法を用いて明らかにし、SGHの教育成果を多角的・複眼的に示すことを目的とする。例えば、生徒たち学習の習慣・スタイル・型の形成、成功体験によるその強化、SGHに関わることによる教員の資質・力量の向上、意識の変化などである。

②調査時期：平成30年12月～平成31年3月

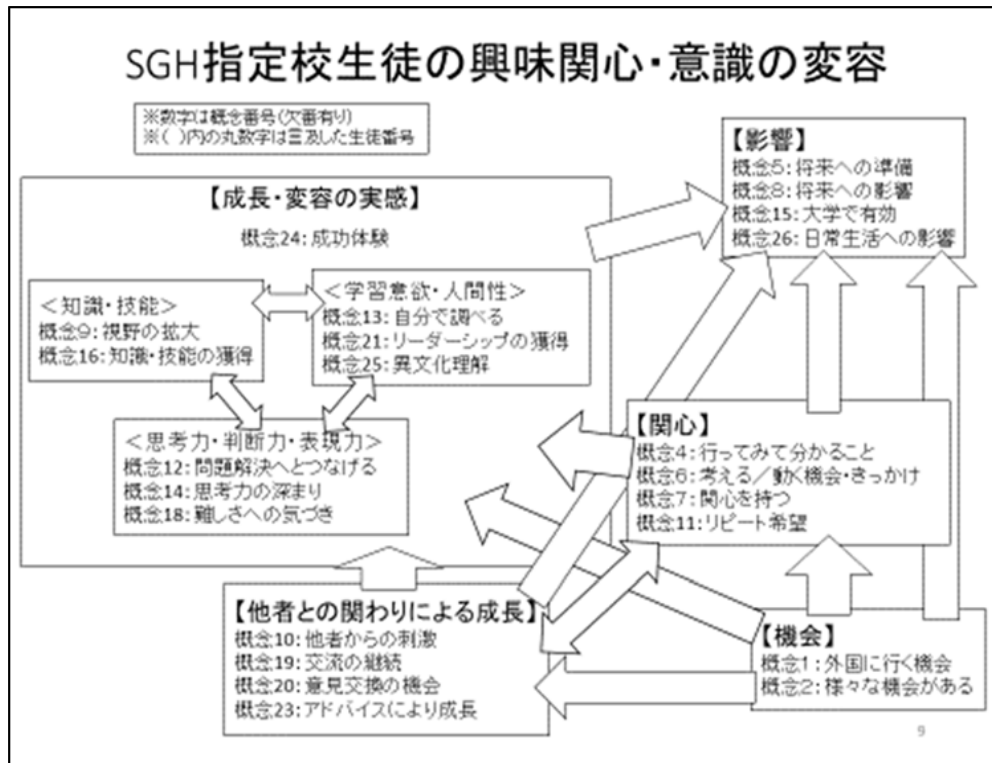
③調査対象：在校生(当時)22名、卒業生12名、教職員26名

④研究結果

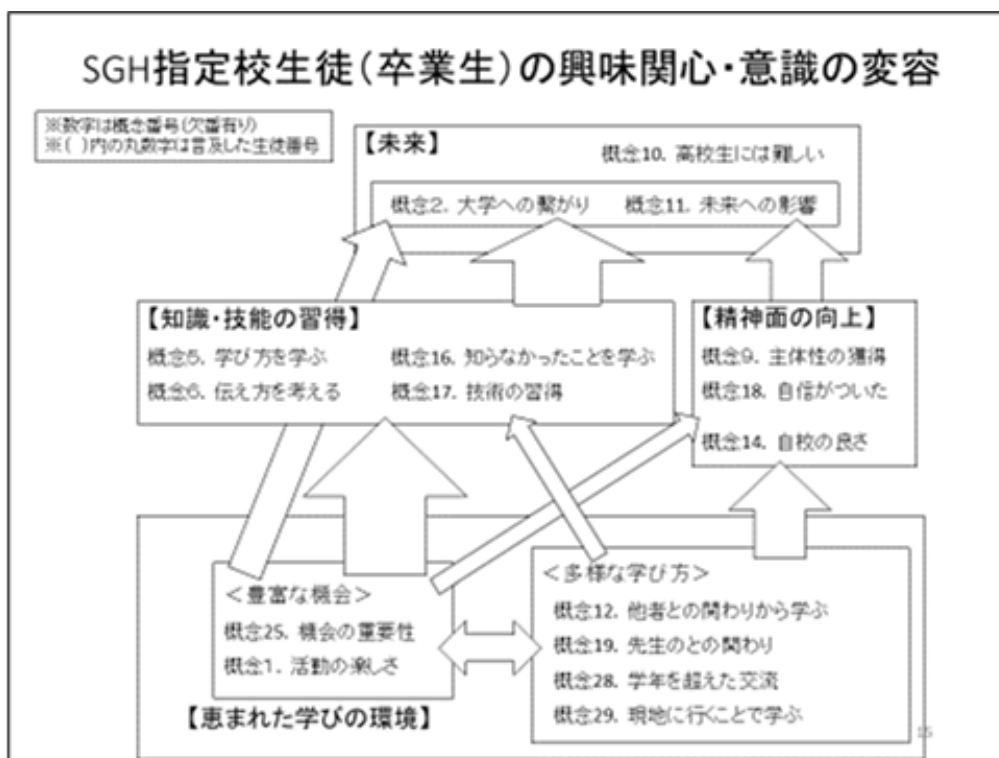
以下は、研究結果の抜粋である。詳しくは「SGHの成果に関する質的研究のフィードバック」を参照されたい。

まず、インタビューの分析結果を概念化した図を提示する。続いて、概念図を説明するストーリーラインを箇条書きにして示す。

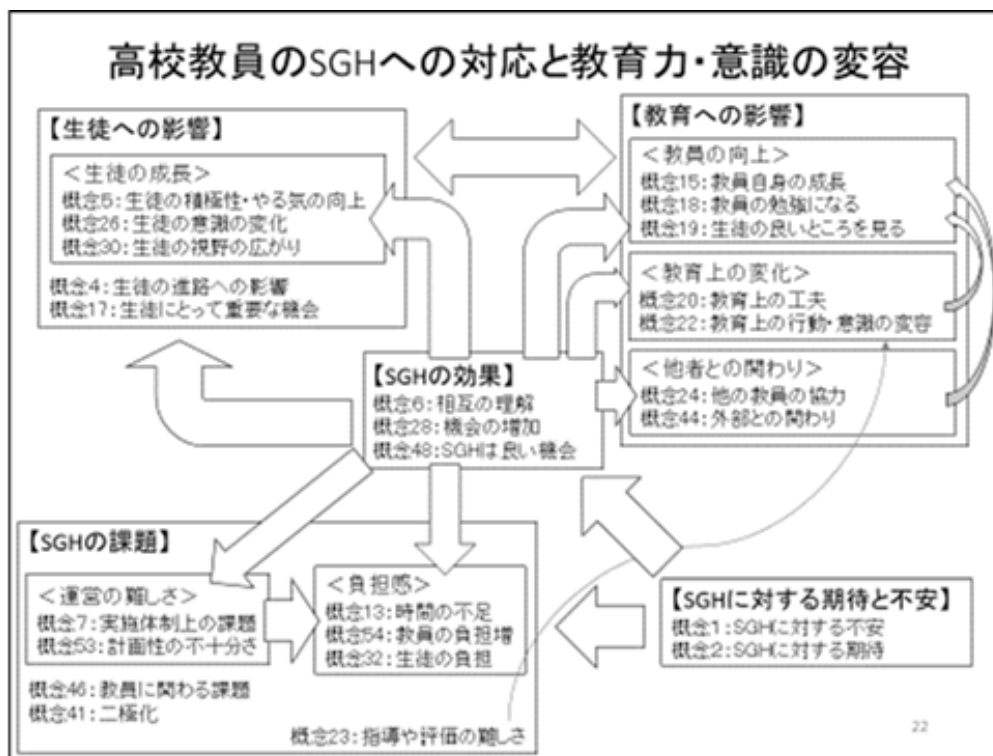
生徒、卒業生、教員の順に説明していく。



- ・ SGH に指定され、海外での学習や探究型学習など、啓明学院には様々な機会が存在している。
- ・ 生徒たちは、そのような機会に触れることで、興味関心を持ったり、深く考えたりするようになる。
- ・ 生徒たちは成長や変容を実感しており、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習意欲・人間性も身についたと認識している。
- ・ 他者との関わりから、生徒たちにそのような成長が生じている面もある。
- ・ さらに、機会を活かして学ぶことにより、進路や学習方法など、生徒たちの将来や日常生活に変化が生じている。



- ・SGH に指定され、啓明学院には豊富な学びの機会があり、多様な学びが存在していた。
- ・卒業生たちは、高校時代にそのような学びを通して、知識・技能、学び方、アウトプットの仕方など、多くのことを習得した。
- ・また、卒業生たちは、高校時代の経験を通して、学習面に限らず、主体性や自信など、精神面での向上も実感している。
- ・卒業生たちは、高校時代にこれらを身につけたことで、大学型の学びにスムーズに移行できている。
- ・さらに、SGH の活動は、卒業生たちの進路等にも影響を与えている。



- ・教員たちは、SGH に指定されて期待と不安を抱いていた。
- ・SGH が始まると、これまでの教育活動に加えて、様々な学習の機会が増え、それによって相互の理解が進んだ。
- ・その一方で教員たちは、様々な機会の増加により、多忙化や二極化などの課題が生じていると認識している。
- ・教員たちは、それでも多様な学習機会は生徒たちに良い影響があり、その成長を実感している。
- ・さらに、教員が新しい教育方法を取り入れたり、様々な工夫をしたりしており、教育上の効果も生じている。

以上の結果は、本学院内で行った各種調査の結果とおおむね一致している。

8 5年間の研究開発を終えて

(1) スーパーグローバルハイスクール指定後の教育課程における変化、工夫

「総合的な学習の時間」（ソーシャル・アントレプレナーシップ）、学校設定科目である「学術研究」、フィールドワーク、その他正課の授業との連関を強化した。

SDGs テーマにして、それぞれの取り組みを繋げている。

民間企業、大学教授、NPO 関係者による講義・議論、ソーシャルビジネスプランの作成等だけでなく、複数の正課の授業を通して、グローバルな社会課題の発見と解決を学ぶ教育課程に変化させることができた。次項に教育課程の変化を示す。

SGH指定以前

2014年度入学生高校カリキュラム																																キャリア教育			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32			
1年	中入学	国語総合			日本史B			コミュニケーション英語Ⅰ		英語表現Ⅰ	英語会話	数学Ⅰ	数学A	化学基礎	生物基礎	体育	音楽Ⅰ	社会と情報 A B		聖書	地歴特講	LHR				総合的な学習の時間 チャペルアワー	ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語 高3のみ3学期3週間第2外国語集中講座 土曜選択講座/夏期集中講座/冬期集中講座								
	高入学	国語総合			日本史B			コミュニケーション英語Ⅰ		英語表現Ⅰ	英語会話	数学Ⅰ	数学A	化学基礎	生物基礎	体育	音楽Ⅰ	社会と情報 A B		聖書※	読書	LHR													
2年	全	現代文	古典	地理A	世界史B	コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅱ	数学Ⅱ	数学B	物理基礎	体育	保健	家庭基礎	選択	学術研究	キリスト教Ⅰ	LHR																	
3年	文系	現代文	古典	現代社会	世界史B	日本史特講	コミュニケーション英語Ⅲ		英語表現Ⅱ	数学特講	理科特講	体育	保健	家庭特講	美術	選択	学術研究	キリスト教Ⅱ	LHR																
	理系	現代文	現代社会	世界史B	コミュニケーション英語Ⅲ		英書講読	数学Ⅲ		物理	化学	体育	保健	選択	学術研究	キリスト教Ⅱ	LHR																		

※ 高校入学生に対して、聖書特別講座あり

個人研究レポート

高2選択科目 ・英書講読 ・化学(高3理系希望者必修) ・生物(高3理系希望者必修) ・音楽 ・工芸 ・古典特講	高3選択科目 *進学関連科目 ・英語特講(関学大文学部英米文・総合政策学部・国際学部希望者推奨) *実技・実習科目 ・美術(理系) ・音楽 ・食物	*教養科目 ・数学演習 ・数学特講(理系) ・仮称「平和学」 ・法律学 ・国際政治・国際経済
--	---	---

SGH指定1年目~4年目までの入学生 グレー部分がSGHに関連する授業

教育課程(2018年度入学生)																																ミニディベート	社会問題と解決法プレゼンテーション	ソーシャル・アントレプレナーシップ	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32			
1年	国語総合	日本史B			数学Ⅰ		数学A	化学基礎	生物基礎	体育	音楽Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅰ	英語表現Ⅰ	英語会話	社会と情報 A B		聖書	地歴特講	LHR				総合的な学習の時間 チャペルアワー	ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語 高3 3学期(4週間)第2外国語集中講座 土曜選択講座/夏期集中講座/冬季集中講座											
	国語総合	日本史B			数学Ⅰ		数学A	化学基礎	生物基礎	体育	音楽Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅰ	英語表現Ⅰ	英語会話	社会と情報 A B		聖書	読書	LHR																
2年	現代文B	古典B	世界史B	地理A	数学Ⅱ		数学B	物理基礎	体育	保健	美術	コミュニケーション英語Ⅱ	英語表現Ⅱ	家庭基礎	選択	学術研究	キリスト教Ⅰ	LHR																	
3年	文系	現代文B	古典B	現代社会	世界史特講	日本史特講	現代社会		数学特講	理科特講	体育	保健	美術	コミュニケーション英語Ⅲ	英語表現Ⅱ	家庭特講	選択	学術研究	キリスト教Ⅱ	LHR															
	理系	現代文B	世界史B	現代社会	数学Ⅲ		物理	化学	体育	保健	美術	コミュニケーション英語Ⅲ	英語表現Ⅱ	英書講読	選択	学術研究	キリスト教Ⅱ	LHR																	

※ 高校入学生に対して、聖書特別講座があります。

個人研究レポート

フィールドワーク

高2の選択科目(予定) ・英書講読 ・化学(高3理系希望者必修) ・音楽 ・工芸 ・古典特講	高3の選択科目(予定) ・英語特講(関学大文学部英米文・総合政策学部・国際学部希望者推奨) ・数学演習 ・数学特講(理系) ・仮称「平和学」 ・国際政治・国際経済	・法律学(関学大法学部希望者推奨) ・音楽 ・美術(理系) ・社会学入門(関学大社会学部希望者推奨)
---	--	---

SGH指定5年目 グレー部分がSGHに関連する授業

教育課程 (2019年度入学生)		現代の社会課題ディベート										SDGsと解決法プレゼンテーション										ソーシャル・アントレプレナーシップ											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合
	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B	日本史B
2年	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B
	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B	古典B
3年	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B
	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B	世界史B

※高校入学生に対して、聖書特別講座があります。 ※総合的な探究の時間は、学術研究、読書、地歴特講をも

高2の選択科目 (予定)	高3の選択科目 (予定)
・英書購読	・英語特講 (関学大文学部英米文・総合政策学部・国際学部希望者推奨)
・化学 (高3理系希望者必修)	・数学演習
・音楽	・数学特講 (理系)
・工芸	・仮称「平和学」
・古典特講	・国際政治・国際経済

5年目の1年生のカリキュラムを改定した。1年次「読書」(1単位)、「地歴特講」(1単位)、2・3年次の「学術研究」(各1単位)を「総合的な探究の時間」とした。

(2) 高大接続の状況

①新教育課程への準備

平成30年3月の学習指導要領の改定に伴って、平成30年度より、学院内にカリキュム検討委員会を設置し、全教科の主任が議論を行っている。

②「高校生の学びの基礎診断」

平成30年度より「高校生の学びの基礎診断」の運用を開始した。ICTを活用し「主体性等」を評価する入試学者選抜モデルの取り組みを開始した。関西学院大学が高大接続ポータルサイト(JAPAN e-Portfolio)の研究開発幹事校となっているので、同大学の継続校である本学院は連携強化のために取り組んでいる。新入学生全員がタブレット端末を購入し、生徒は日々の学びをふりかえり、記録している。

③英語4技能の判定

平成13年に本学院は関西学院大学の継続校となった。これを機に、本学院では高校卒業までに実用英語検定(英検)2級取得を目標とするようになって、推薦入学を目指す生徒は必受験となり、現在に至る。28年度より、英語4技能を測るために英検にライティングが導入された。この年から2・3年次に英検に加えて、TOEICを受験させるようになって現在に至る。令和元年度に3年次にGTECを受験させるようになった。

④大学での学びに備えるための取り組み

ア 平成25年度に「法律学」、29年度に「社会学」入門が3年次の選択科目として導入され、現在に至る。講師は関西学院大学ほかの教授である。

イ 平成28年度に高大連携科目履修制度(関西学院大学との連携)が導入された。履修者は、28年度に2名、29年度が6名、30年度が10名、令和元年度が9名と増加している。

- ウ 平成 28 年度に「国連明石塾」(当時、関西学院大学との連携)が始まり、生徒が応募したが、29 年度に初めて応募者が受講を認められた。30 年度 1 名、令和元年度 1 名が受講している。
- エ 平成 29 年度に ROOT プログラム(神戸大学他との連携、国際的科学技术人材育成挑戦プログラム)が始まり、30 年度に 1 名、令和元年度に 1 名が受講を認められ研究の指導を受けている。

(3) 今後の事業の持続可能性

「学術研究」「総合的な探究の時間」、「フィールドワーク」、「英語」、「社会」等の授業での取り組みは、持続可能である。その理由は 5 点ある。

第 1 に、大学、民間企業、NPO 等、外部人材のネットワークが、拡大し、維持されているからである。

第 2 に、外部人材とのネットワークを通じて、教員が、ノウハウを身につけたからである。

第 3 に、講師を招く経費については、管理機関が負担し、海外フィールドワーク参加費については、生徒の自己負担としている。SGH の委託費がなくなっても資金面で不安定になることはないからである。

第 4 に、生徒、保護者、グローバル教育への期待が高いからである。

第 5 に、卒業生からの支援(人、情報)が期待できるからである。

【担当者】

担当課	SGH 推進室	T E L	078-741-1501
氏 名	佐藤 知行	F A X	078-741-1512
職 名	SGH 推進室	e-mail	tomo.sato@keimei.ed.jp